

# 安全大会報誌

安衛委 No139  
平成26年4月29日  
安全衛生推進委員会

## 平成二十六年 安全大会

今年の安全大会は、四月二五日大越公民館で、開催されました。

専務より、二五年度は無事故無災害で済みありがとうございます。安全がなければ企業はなし、重大に事故を起こせば、刑事責任民事責任を問われ企業存続が出来なくなりません。昨年の死亡災害を見ますと、バックホウ転倒による死亡が一人、本宮で発生した崩落事故により二名が死亡し、その内一九歳という若い命が絶たれました。健康あつての幸せであり、健康に優る富はなし、不健康になつて初めてわかることで、健康な身体を維持していかねければなりません。今年の定期健康診断が六月一八日、二〇日に行われますので全員受診していただき、本日の講演「自分の健康管理を考える」を聞いて、自分の健康管理に役たて



て頂きたいと挨拶がありました。続きまして、勤続表彰で箭内金蔵さん、渡辺珠代さんが三十年と永年に渡り会社に貢献して頂きました。安全標語は、四二人から七四点の応募があり最優秀賞に、坪井正孝さんの「なれた作業に落とし穴防ごう（危険の芽）ルール守つて無災害」優秀賞に二瓶国一さん

の「見逃すな！小さな予兆危険の芽を摘みゼロ災害」会田貞二さんの「安全は手を抜くな見逃すな初心に帰って基本作業」が選ばれ受賞しました。無事故無違反表彰は、遠藤紀夫さん三十年、国分雄浩さん二十年、渡辺珠代さん十年で受賞しました。

現場体験談では、三浦明裕さんが建設現場は災害がつきまとう所であり、今まで現場での事故があればその都度会社あげての対策や経験をさせて頂いたが、現場は生き物であり、予想しながら未然に防ごうと努力してきたが、災害は自然と隣り合わせであり、経験だけではやっていけないので、若い人や現場の人達の意見を聞いて、考え方を変えて対策をしている。これからは、形にはまった安全対策ではなく、その場にあつた対策が必要になつている。人の命は金では買えないので、器具や道具は金で買うことが出来るため、対策を話をして頂きました。

講演では、福島県中保健福祉事務所の根本真紀子様が、「自分の健康管理を考える」と題してプロも健康であるために！

いました。福島県民の平均寿命は全国平均より低いこと、高血圧や脂質異常症等の服用者数は全国平均を上回っていること、メタボリックシンドロームの該当者及び予備群は全国平均より多いため、脳卒中や心疾患の発症危険性が增大するので、一日三食しっかりと食べ、バランスの良い食事をする、野菜、きのこ、海藻類はたつぷりと食べ、揚げ物や脂身の多い物は控え、塩分の摂りすぎに注意すること、お菓子類はカロリーは高いが栄養がないので、食事代わりにはしないこと、酒は適量に飲めば良いのですが、飲み過ぎると害になりますので、楽しく適量を飲みましょう。最後に健康診断は毎年自分の身体の状態を把握し、要医療は早めに医療関係で受診し、健康で働くために健康管理はとても大切です。

定年退職後も健康であるために！

